

# 路政所感



道路改良會理事  
陸軍少將

木原

清

道路施設の良否は地方開發に及ぼす影響尠なからざるのみならず、國防上より見るも誠に重大なる關係のあることは今更ら喋々するの要なきことで、今日では道路觀念は漸く重要視さるゝに至り、道路政策は鐵道或は港灣乃至河川問題と並べて論究せられ、著々道路改善の實行を見つゝあるは御同慶の至りであるが、さて道路の維持保存を一に其の管理者のみの努力によりて完全を期せんとするは至難な事、勢ひ地元市町村居住者の道路愛護に俟たねばならぬのである。而して近時は少しつゝ此觀念の唱導せらるゝに至り、最近も茨城縣に於て道路愛護會規則の制定竝之れに引續き道路愛護運動の行はれたる等あり、其の他各地方共道路愛護の標語を掲けたる標札を處々に設くる等は、道路に對する理解の表現で誠に結構なことであるけれども、いくらかゝる宣傳をしても當面の使用者が眞に了解して自覺せねば其の効果を望むことは不可能である。然るに現在、地元居住者の之れに

對する智識は誠に貧弱で従て道路愛護の必要などの理解は至つて幼稚であるところが少くない。自分は最近本洲中部地方を演習視察旁々旅行したとき、斯る標札を立て、居る地方に於て暇にあかして地方の青年團員等に其の標語の意味、道路愛護の必要などに就き試問して見たが一向要領を得ざるもの多く、小學校生徒に至りては尙更ら然りである。其の他役場の吏員も單に上司の意圖なる故に之を設けたと云ふに過ぎずして、眞に其の必要や設けたる精神等を理解して居らぬものが多かつた。かくては道路愛護の實績は仲々揚りさうにも思はれぬ。此れは眞に一地方のことであるが已に注意して標札までも立て、居る地方に於てすら然りであるから他は推して知るべしであると思ふ。

我國の如き六十年前は東海道さへ御駕籠で將軍様が通つた様な譯で、元來道路に關し傳統的に無關心な邦人のことであるから此等道路愛護交通智識普及といふことは仲々進まない之れはどうしても國民教育として一般國民に教養することが必要である。何事に依らず日本では政府の力にのみ依頼する惡風は免れないが、道路又然りであつて道路の改良の如き一般的のことは兎角政府の指導援助を受けなければ實施されない風があるから先づ此習慣を打破しなければいけない。即ち進んで道路愛護の實務を訓練し自治公共の念慮を涵養自覺せしむることが肝要であると思ふ。而して此は單に親父教育ばかりでなく次の國民即ち學校教育に俟つところ少なくない。即ち地方に於ては行政方面のものと文政方面のものと能く連絡して此目的を貫徹すべきである。斯くする時は國家の施設と相俟て貧弱な我國の道路も逐次改善せられ、將來は見違へる程美事な道路網の完成を見るは疑を容れざる所である。

次に少しく述べたいのは路幅のことである。抑々路幅の決定は道路構築に際し計畫すべき諸種の問題中最も須要なる問題で、車輛交通の安全利便や軍事上の見地等よりすれば幅員の廣い程多々益々辨すで、殊に方今自動車为主要交通機關として盛に用ひらるゝ様になつてから、重要道路は自動車が高速で行違ふ事が出来るため相當の路幅を要するのである。然るに一方路幅は財政上の見地から甚だしい掣肘を受くるので、地勢の關係もあるけれど我國の舊道路は道路輸送の見地からしては全然零點である。即ち路幅の狭いもの多く勾配曲屈半径の不適當なるのと共に到底急速自動車を運轉するの見込がない。其結果世人の多くは陸路輸送と云へば單に鐵道なりとの觀念が國民の腦底に深く印象せられて居るのは遺憾である。勿論鐵道には鐵道の特長があつて之れを利とする場合尠なく、今日帝國鐵道の建設が日も亦足らすとして其の工を進めつゝあるのを見ても了解さるゝことと思ふ。然し道路の價値の普遍的であつて民衆生活向上の爲め其の發達を望むことは己に公認せられたる定論である。従て今や識者間には一般經濟上に於ける鐵道と道路との利害關係乃至併進を必要とする意味はよく知れて居ると思ふが、遺憾ながら一般の人士には未だ十分に普及されて居らぬと思ふ。軍事上に於ける鐵道輸送と道路輸送との利害の比較は拙者が嘗て本紙に述べて置いたから今は省略するが、軍事輸送のためには必ずしも鐵道を有利とせず却つて道路によるを有利とする場合亦尠くない。従て道路を現在の儘にして置ては縱令鐵道が尙發達しても軍事上支障を來すことあるへきは想象に難くない。そこで自動車を自由に通行せしめる爲めには鋪裝と路幅との二點に於て完全なるを要求する次第であるが拙者は何を措いても先づ路幅の方を重要視したいと思ふ。殊に

過度期にある日本の道路の現況に於て此要求を必要とする蓋し道路の舗装は頗る必要であるが貧乏世帯を一時に何にもかも立派に出来ないとするれば新設道路にせよ改築道路にせよ其の程度にもよるが拙者は議論なく先づ路幅を出来るだけ廣くして置く方に賛成である蓋し舗装は金が出来れば後からでも出来るからである。最近ドシ／＼發展して行く大都市近郊の道路が狭い儘で兩側に軒を並へた家屋が櫛比して建築されて居る状態を見て一體家を建てる前に廣い道路を造ることは出来ぬだらうか府廳とか町村役場とか云ふお役所には目のあいた人も澤山居らるゝのであるから、もう少し先きを見越した指導振りがありさうなものだと云ふことを痛感させられるのである。

次には橋梁のことであるが最近御施行に相成つた佐賀附近の大演習で演習終了後佐賀市東北方神崎附近で陸軍の戦車通過の爲め立派な道路上の橋梁が墜落しかゝつて一時統監殿下の御通過に支障を來たしさうであつた所が二個所もあつた、一つは國道上の他は縣道上の小橋である幸ひ應急修理で間に合つたが此橋梁の如きは國縣道上で而かも演習前から注意して安全と信せられてあつたに相違ないものが斯る有様だとすると有事の際如何なる場所で戦闘が起るかも分らないから新兵器は戦場に持つて行けないことになり所謂寶の持腐れとなると云ふ馬鹿氣たことになる實際近時陸軍の兵器も漸次機械化せられ動物運搬法が漸次自動車運搬法に變化しつゝある傾向である先日も或る演習で一輛の無線電信自動車が縣道上に故障を起し兩側が深田のため其の後方から戦線へ急進しつゝある歩兵旅團の前進はにつきもさつちも附かず遂に其の行進を閉塞し戦機を逸せしめんとした實例もある。以上は單に拙者の最近實見した一例に過ぎないが軍用自動車採用以來各

地方で其の通過の爲め立派な道路の橋が墜落した例は尠くないのである。

最後に近頃新聞紙上に見ゆる自動車道法案が今議會に提案さるゝと云ふ噂に關連し本州横斷道の必要を提唱し度いと思ふ。海上より東京及名古屋附近に直接輸入されつゝある物資の量は、後にも述ふる如く平時に於て已に大分の數に達して居る。有事の場合太平洋の海上が敵に脅威さるゝ時平時太平洋沿岸に輸入されつゝある此等物資は果して何れの道を通過せしむる事になるであらうか、青森よりの鐵道京阪方面よりの鐵道は平時に於て既に大なる餘力がないから、到底其の需要には應じ兼ねる、其の結果日本海の諸港灣に揚陸して先づ鐵道により太平洋岸に輸送する外あるまい、然るに此鐵道も亦其の輸送餘力と云ふものは平時の數量でさへ次に述ふる如く不足するのである。

平時東京及び名古屋附近を中心とする工業地へ向け、太平洋の海路により輸送されつゝある數量は年額大凡七百五十萬噸で戰時太平洋が敵のため脅威さるゝ場合此量の約三分の一だけか危險を冒して太平洋を通過して輸入さるゝものと假定すると、(註。大體に於て我海軍が太平洋岸を制壓して居るとして、潛水艦の發達せる今日絕對の制海權獲得は困難であるへきは過般の歐洲大戰に於て優勢なる海軍を有する英國が食糧に窮した實例を見ても了解し得るの差すめ約五百萬噸は陸である日露戰爭當時弱小の露國東洋艦隊に對しても銚子以北の太平洋岸は大に脅威されたてはないか)路裏日本方面より本州を横斷して輸送されねばならぬ、さて此れだけの數量を東京、名古屋の背面たる裏日本の港灣を通過して太平洋岸に送る場合を觀察するに、例へば新潟、伏木、敦賀の三港で揚陸するものとすれば、此三港だけでも其の荷役能力は優に其の要求を充たし得ると信する、然し之に對し陸上輸送力は到底之に應じ得ない、即ち敦賀—米原線、直江津—名古屋(東京線、新潟—郡山—東京線等

の本州横斷鐵道の輸送餘力は今の所では遺憾ながら前記の五百萬噸に達しない、尙ほ現在の施設では本州中部地方の輸送力を協力増大し且つ上越線の完成を見た場合でも日本海方面より本州を横斷して關東平野に達し得る輸送餘力は矢張り前記の數量に達しないと思ふ、更に窮餘に於て大阪方面よりする東海道線及關西線の輸送餘力を胸算(註。此胸算も戦時は餘り當てにならぬ如何人となれば東海道線の如く一部か外洋に暴露せる鐵道は敵の爲遮斷せらるることあるを覺悟せらねばならぬからである其の結果に至ては大震災當時鐵道不通の状態を想像すれば大體了解出来るのである)するとしても尙ほ尠なからざる不足を生し他の方法によらねば東京及び名古屋を中心とする戦時工業は維持されることゝなる(數字の計算は遺憾ながら詳細に發表することを差控へる)。

尤も此窮境に立つことになれば國民全體の自覺自制の力に所謂贅澤品の輸送制限や食糧品其他に於て國産物による代用品の採用等により、前記輸送力の不足は補はれるかも知れないが、大體に於て數字に基く常識的の見當は以上の通り樂觀は出來ないのである。

こゝに於てか之が解決のためには更らに鐵道網を増加するか、裏日本方面より本州を横斷して關東平野並濃尾平野に達する自動車道を開通せしめねはならぬと思ふ、自動車道法案が此の如き規模大なる方面に迄も有効に働くことゝなれば至極結構なことで、其の成行は今後大に刮目して見るべきものがある、よしや該法案が直接に役立たない迄も該法案の施行其他が與て道路の改良が促進され、従て自動車數が増加することになれば戦時に於ける國防上否寧ろ國民生活安定上大に都合良い譯である、道路に就ては尙ほ述べ度いことが澤山あり、世人の注意を喚起したいことも尠くないが、餘り長くなるから今日は所感の一端を披瀝して筆を擱くことゝする。